



かしわざき

第53号

令和8(2026)年8月31日 発行

農業委員会HP



農地に関する情報や
農業委員会だよりの
バックナンバーを掲載
しています。

農業委員会だより

TOKUNAGA FARM
徳永農園

～日々の発見が農業の楽しさ～

徳永農園 徳永 美樹さん

徳永農園の徳永美樹(35)さんに話を聞きました！

父が経営する株式会社徳永農園でパートとして働き、3人の子どもを育てながら、農業に携わっています。夫も結婚を機に就農したことから、子どもの健診や保育園の送迎の時間を確保しやすく、子育てと仕事を両立できる点に魅力を感じています。

この時期は、スターチスや紅花といった切り花の収穫・出荷作業が中心で、収穫した花は地元のスーパーへ出荷しています。切り花は収穫のタイミングや品質の見極めが難しく、「もっと手早く収穫できるようになりたい」と日々技術を磨いています。実際に収穫作業に携わる中で、花の種類によっては何度も収穫できることなど、新たな発見があり、農業の面白さを実感しています。自分たちの育てたお米や野菜について「おいしかった」と直接声を掛けてもらえることが農業を続けていく上での大きな励みになっています。

笑顔でそう話す美樹さん。冬場には餅づくりや除雪作業の助手も務めるなど、一年を通して農園を支えています。農園で働く仲間や家族と力を合わせ、地域へ農産物や花を届けています。

新しい柏崎市農業委員・農地利用

新会長就任のあいさつ

柏崎市農業委員会 会長 佐藤 敏



農地会議

7月の改選により、農業委員会会長に選任されました佐藤です。
 近年、「令和の米騒動」とも言われる米不足や米価の変動、収束の見えない中東情勢など、食料を取り巻く環境は大きく変化し、将来への不安を感じている方も多いことと思います。
 一方で、基幹的農業従事者数は100万人を下回り、農業の担い手不足は深刻さを増しています。今、何より重要なのは、これ以上農業者を減らさず、地域農業を次世代へつないでいくことです。
 皆様の地域で、農業を引き継ぐ担い手は確保されているでしょうか。農地を守り維持していくことは決して簡単なことではありません。食料を生み出す農地は、私たちの暮らしを支える大きな財産です。豊かな農地と地域の農業を未来へつないでいけるよう、農業委員と農地利用最適化推進委員が力を合わせて取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

農業委員 19名



はいの ぜんえい
灰野 善栄

農地会議



ひらの まつお
平野 松夫

農地会議



うちやま まさかず
内山 正和

情報会議



たかはし けいこ
高橋 啓子

情報会議



まきぐち なつみ
巻口 夏美

農政会議



つきはし あすか
月橋明日香

情報会議



やまなみ つよし
山波 剛

会長職務代理者 農政会議



こばやし ひろき
小林 廣喜

農地会議



あべ しげはる
阿部 茂晴

農政会議



なかむら みさえ
中村美沙恵

農政会議



こやなぎ なおき
小柳 直樹

農地会議代表



せきや みつたか
関矢 光孝

農地会議



あべ じゅんいち
阿部 淳一

情報会議



ささがわ ひろし
笹川 宏

農政会議



まえざわ としひこ
前澤 敏彦

農政会議



なかむら ゆたか
中村 豊

情報会議



やすの けんいち
安野 検一

農政会議代表



みずの みほ
水野 美保

情報会議代表

新役員

会 長 佐藤 敏
 会長職務代理者 山波 剛
 農地会議代表 小柳 直樹
 農政会議代表 安野 検一
 情報会議代表 水野 美保

退任のあいさつ

前会長 石塚 道宏

このたび会長を退任するにあたり、一言お礼を申し上げます。
 在任中は、農業委員及び農地利用最適化推進委員、関係各位の皆様から、温かいご指導・ご協力を賜り、職務を全うすることができました。農業を取り巻く環境は年々厳しさを増しておりますが、皆様のご尽力により地域農業の発展が図られることを願っております。
 結びに皆様方の今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、退任の挨拶といたします。ありがとうございました。

最適化推進委員を紹介します

農地利用最適化推進委員

27名



たけうち よしひろ
竹内 美博

田尻地区



たなか まさかず
田中 正和

田尻地区



なかざわ なおひろ
中澤 直寛

中鯖石地区



なかむらこういちろう
中村耕一郎

中鯖石地区



おくら としろう
大倉 敏朗

南鯖石地区



しなだ ただあき
品田 忠昭

北条地区



わたなべ ひでかず
渡辺 秀和

北条地区



おがき けんた
尾崎 健太

西中通地区



こばやし まさし
小林 雅

西中通地区



こやま ひでいち
小山 秀一

西中通地区



かずが ともよ
春日 知代

北鯖石地区



まじま しゅういち
間嶋 秀一

北鯖石地区



いしぐろ よしかず
石黒 芳和

中通地区



はせがわ ひさお
長谷川久雄

中通地区



うえすぎ ひでゆき
上杉 英之

柏崎地区



もちづき てっしん
望月 鉄心

柏崎地区



たけい よしあき
武井 義明

米山・上米山地区



いづか とおる
飯塚 透

高田地区



たかはし きみと
高橋 公人

高田地区



ほしの くにお
星野 邦夫

上条地区



ながい あきら
長井 昭

別俣地区



たなべ たかし
田邊 貴司

野田地区



しぶえ よしてる
澁江 嘉輝

鶴川地区



おおはし しょうさく
大橋 昭作

高柳地区



たかはし たつや
高橋 達也

高柳地区



こだま りきや
小玉 力也

西山地区



つきおか まなぶ
月岡 学

西山地区

任期

令和8(2026)年7月20日
～令和11(2029)年7月19日



農業委員及び農地利用最適化推進委員 担当地区分担表 令和8(2026)年7月20日現在

旧 村 名	職 名	氏 名	担 当 地 区
田 尻	農 業 委 員	前 澤 敏 彦	上田尻、両田尻、佐藤池新田、軽井川
	推 進 委 員	田 中 正 和	安田、平井
	農 業 委 員	高 橋 啓 子	同上
	推 進 委 員	竹 内 美 博	茨目全域、下田尻
中 鯖 石	推 進 委 員	中村 耕一郎	与板、宮平
	推 進 委 員	中 澤 直 寛	善根
	農 業 委 員	水 野 美 保	加納
南 鯖 石	農 業 委 員	小 柳 直 樹	山室、大沢、石曾根、森近
	推 進 委 員	大 倉 敏 朗	同上
北 条	農 業 委 員	佐 藤 敏	南条
	推 進 委 員	渡 辺 秀 和	本条、北条、小島
	推 進 委 員	品 田 忠 昭	東条、山澗、旧広田、大広田、西長鳥、東長鳥
西 中 通 荒 浜 ・ 高 浜	推 進 委 員	小 林 雅	橋場、春日、楨原
	推 進 委 員	小 山 秀 一	上原、下原、山本
	推 進 委 員	尾 崎 健 太	土合新田、劔、下大新田
	農 業 委 員	小 林 廣 喜	土合、長崎、長崎新田
	農 業 委 員	平 野 松 夫	松波、荒浜、高浜
北 鯖 石	推 進 委 員	間 嶋 秀 一	与三、畔屋
	農 業 委 員	阿 部 茂 晴	藤井
	推 進 委 員	春 日 知 代	中田
中 通	農 業 委 員	笹 川 宏	曾地（菊尾除く）、成沢、小黑須、飯塚、五十土
	推 進 委 員	長谷川 久雄	花田、曾地新田、曾地（菊尾）
	推 進 委 員	石 黒 芳 和	吉井、矢田、飯寺
柏 崎	農 業 委 員	阿 部 淳 一	枇杷島、半田（岩上含む）
	推 進 委 員	上 杉 英 之	剣野、大洲、鯨波
	推 進 委 員	望 月 鉄 心	柏崎、比角、田塚、新田畑
米山・上米山	推 進 委 員	武 井 義 明	米山、上米山
高 田	農 業 委 員	内 山 正 和	新道、貝淵、黒滝
	推 進 委 員	飯 塚 透	同上
	農 業 委 員	巻 口 夏 美	藤橋、向陽町、長峰町、ゆりが丘
	推 進 委 員	高 橋 公 人	横山、堀、南下
	農 業 委 員	中 村 豊	上方、下方
上 条	推 進 委 員	星 野 邦 夫	上条、宮之窪、山口
別 俣	農 業 委 員	山 波 剛	水上、細越、芋川、小田山新田
	推 進 委 員	長 井 昭	佐水、古町、久米、
野 田	推 進 委 員	田 邊 貴 司	野田、宮川新田、清水谷
	農 業 委 員	月 橋 明日香	田屋、木沢
鵜 川	推 進 委 員	澁 江 嘉 輝	女谷、折居、市野新田
高 柳	農 業 委 員	関 矢 光 孝	栃ヶ原、高尾、漆島、荻ノ島
	推 進 委 員	高 橋 達 也	岡田、岡野町、山中
	農 業 委 員	中村 美沙恵	門出、田代
	推 進 委 員	大 橋 昭 作	石黒
西 山	農 業 委 員	灰 野 善 栄	大津、石地、尾町、大崎、甲田、浜忠、鎌田
	推 進 委 員	小 玉 力 也	灰爪、上山田、後谷、別山、尾野内
	農 業 委 員	安 野 検 一	北野、妙法寺、中央台、坂田、五日市、内方、新保、大坪、和田、黒部
	推 進 委 員	月 岡 学	田沢、長嶺、礼拝、池浦、鬼王、伊毛、下山田、二田、藤掛



6/17

新潟工科大学との意見交換会を開催

6月17日、「大学生から見た農業と柏崎のまちづくりⅡ」をテーマに、昨年度に続く第2弾として新潟工科大学学生との意見交換会を開催しました。

当日は、大学生10名、農業委員・農地利用最適化推進委員12名が参加し、3つのグループに分かれて意見交換会を行いました。

はじめに、事務局から農業委員会の役割や活動内容、柏崎地域の農業の現実と課題について説明を行いました。その後の意見交換会では、各グループで委員が進行役を務め、学生が自由に意見を出しやすい雰囲気づくりを心掛けながら議論を進めました。



今回は昨年度に続く同テーマでの開催となり、前回の意見交換会で挙げられた課題や提案も踏まえながら、地域農業の将来やまちづくりについて、より具体的な視点で活発な議論が交わされました。学生からは若い世代ならではの新鮮な視点や発想が示され、委員からは地域農業の現状や課題、これまでの経験に基づく意見が述べられるなど、世代や立場を超えた交流が図られました。なお、学生及び委員から出された主な意見については以下のとおりです。このほかにも、多くのご意見をいただきました。

今回の意見交換会は、地域農業と柏崎地域の未来について、ともに考える有意義な機会となりました。今後もこうした交流を継続し、地域農業の振興と魅力あるまちづくりにつなげていきます。

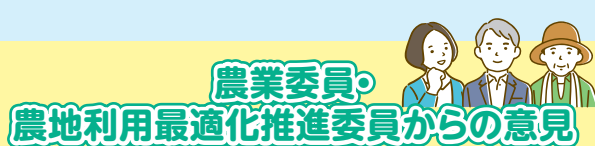


新潟工科大学学生からの意見

技術革新や機械化は有効だが、地域の人間関係への影響もあり、単純な大規模化では解決できないと感じた。

農業者と大学のつながりは想像以上に薄く、研究成果や現場の課題の共有が十分でないことに気づきました。今後は双方の関心を高めるために必要な取り組みや仕組みについて考えていきたい。

米の価格について、農家と消費者の感じ方にギャップがあると思った。



農業委員・農地利用最適化推進委員からの意見

大学生からは、新規就農は設備や機械導入の費用が高く、収入が不安定というイメージが挙がった。これらのリスクを軽減する支援が就農促進の課題だと感じた。

農業人口の減少問題について、学生からは小学校以降に農業に触れる機会が少ないことや、中学・高校・大学など各教育段階で農業に関わる機会を充実させる必要があるとの声が挙がった。

農業者の公務員化は、農業従事者の減少や収入の不安定さという課題に対する画期的な発想だと感じた。担い手不足の解消にも期待できる。

住所・氏名変更登記の申請が義務化されました

令和8（2026）年4月1日から、不動産の所有者（所有権の登記名義人）が住所や氏名を変更した場合には、その変更日から2年以内に「変更登記」を行うことが義務化されました。

正当な理由がないのにその手続きを怠ると、過料の対象になる場合がありますので、変更があった際は速やかに登記手続きをお願いします。

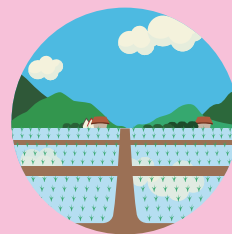
詳しくは最寄りの法務局や専門家（司法書士等）へご相談ください。

問合せ先

新潟地方法務局柏崎支局

〒945-8501 柏崎市田中26番23号 柏崎地方合同庁舎

TEL 0257(23)5226 ※登記手続きの案内は水・木のみで事前予約制



今なら3ヶ月間、無料で試読できます



発行所：全国農業会議所

全国農業新聞を購読しませんか

農業の最新情報や営農に役立つ情報が満載です。地域の明るい話題なども紹介しています。

全国各地の鳥獣害対策事例は、地元での対策の参考になるという多くの声をいただいております。



■毎週金曜日発行

■月額900円(送料、消費税込み)

※令和8年4月1日より、購読料を改定しました

■申込みは、農業委員会事務局へ

農業者年金に加入しませんか

農業者年金の3つの税制優遇

ポイント

1

支払った保険料は

**全額社会保険料
控除の対象**

ポイント

2

保険料の

運用益が非課税

ポイント

3

将来年金として受け取る際も

**公的年金等
控除の対象**



国民年金に上乗せする公的年金制度 農業者年金で老後の生活を安心サポート

編集後記

ピコナースマートフォンのお知らせ。天気情報サービスから届いたエルニーニョ現象のお知らせです。「今年は冷夏になるだろうか」と思いきや、記事には猛暑への備えを呼びかける内容が並んでいました。はてなの連続ですが、どうやら今年の夏も異常気象への警戒は欠かせないようです。

テレビでは、流通の目詰まりや資材不足など、どこかで聞いた言葉が飛び交っています。原因や不足するものが何であれ、農業を担う者にとって、厳しい現実と向き合う日々が変わりありません。

この農業委員会だよりがお手元に届く頃には、極早生品種「葉月みのり」の収穫が始まっています。異常気象を乗り越え、笑顔で実りの秋を迎えられることを願っています。（農業委員 水野 美保）

情報会議代表 水野 美保

情報委員 内山 正和 / 高橋 啓子 / 月橋 明日香 / 阿部 淳一 / 中村 豊

